

居場所難民のための場づくり

『ひっきーのいばしょ』

川田 史郎（かわだ しろう）

090-4379-0193
kawada.shiro@gmail.com

「ここは自分の居場所だ」

と実感できる場所、

ありますか？



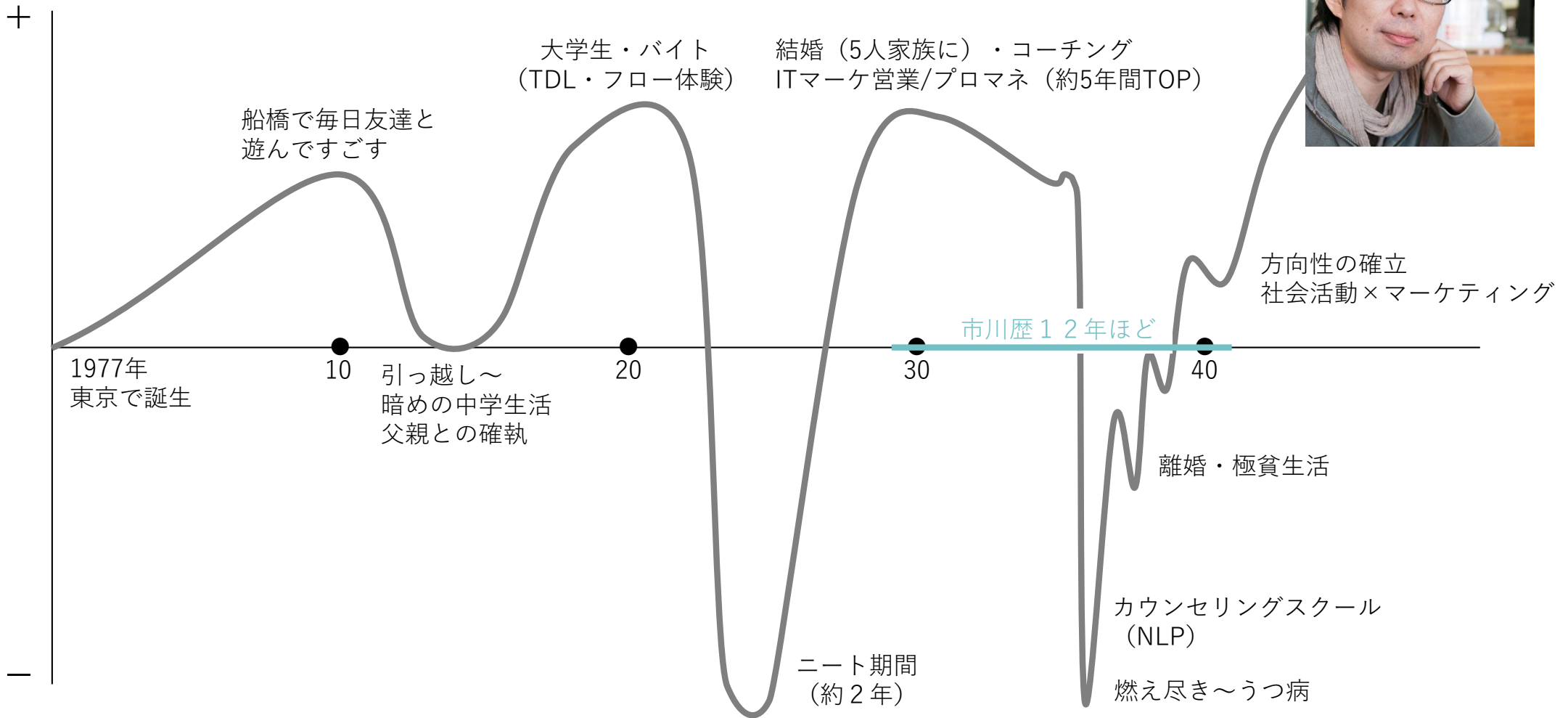
『孤独』

『人との関わり』



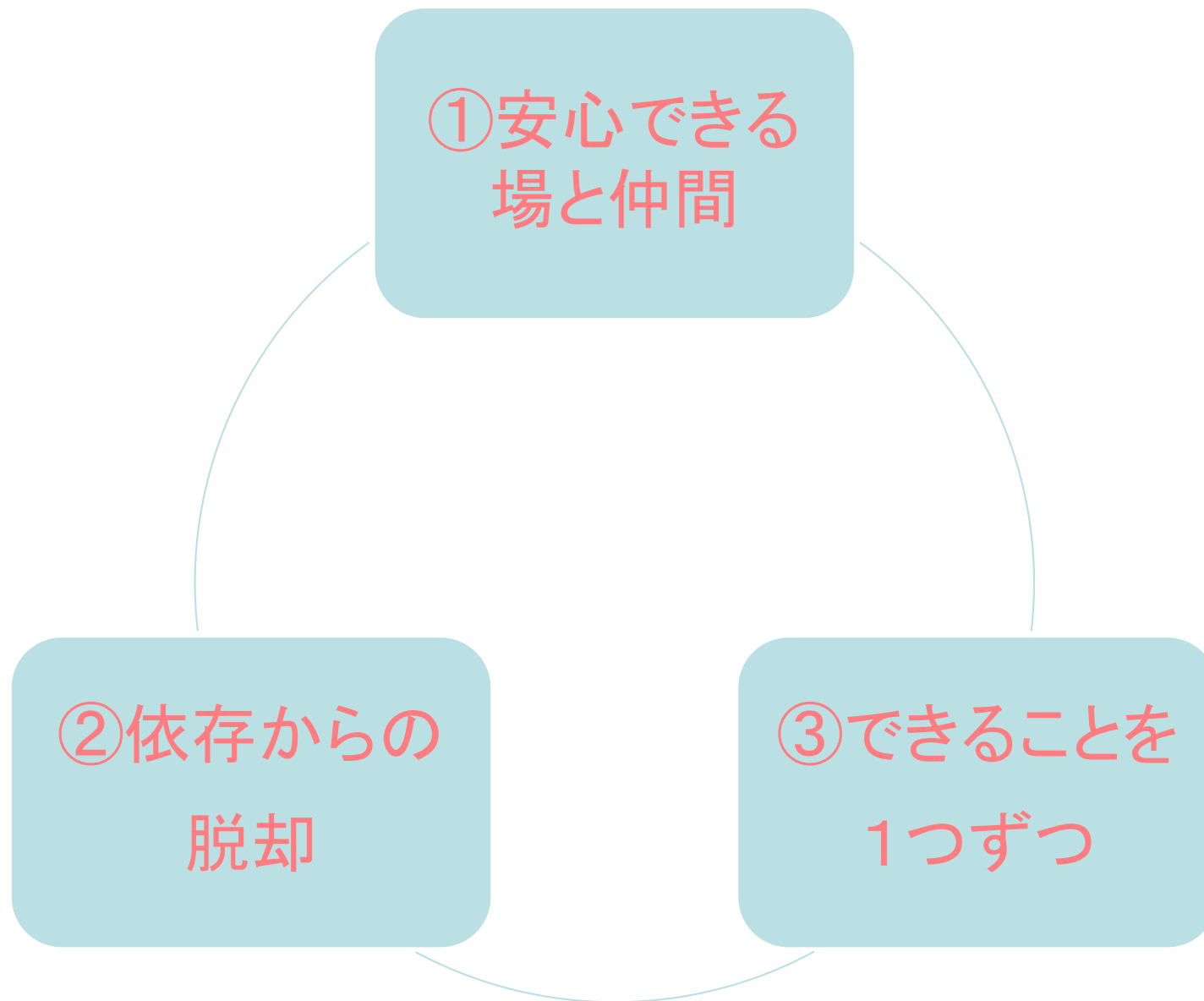
居場所難民

川田 史郎（かわだ しろう）



社会からドロップアウトして強い孤独を感じた時期が2度あった

自分が2度のドロップアウトを乗り越えられたポイント



①安心できる場と仲間

- 同じ境遇を経験していたり、
感覚を理解してもらえる仲間
- 「自分はここにいていいんだ」という
負担のない適度なエネルギーの低さ
(うつの場合、場が強いととても疲れる)
- 失敗できる環境



②依存からの脱却

- 自分の問題 → 他人のせいにはしない
- 他人の問題 → 自分のこととして引き受けない
自分の気持ちをごまかさない
- 失うものがなくなっていて、気軽に諦められるように
→ 何者かになりたい気持ち、承認欲求も手放せた

③できることを1つずつ

- ・ 現実を直視して、まずできることをやった
→ 行動することで少しずつ可能性が広がった
- ・ 少しだけ結果がでたことで自信がついてきた
(心の奥底にあった自信のなさが消えていった)
→ 結果「今までやってきたことでよかった」
という自分の活動のあり方・方向性が明確に

自分にとってのドロップアウト期間とは…

自分を再構成
するための時間でした

ニートやひきこもりなど
孤独感がある人に
自分を再構成できる場
を提供したい

ニート・ひきこもりの人の存在

【国内のひきこもり※人数の推計】

54万人 (2016年内閣府調べ)
若年層 (15~39歳)

120万人 (2017年OECD調べ)
中年~高齢層 (40歳~)

日本国内の推定人数は約174万人 (全人口の約1.4%)

市川市の人口 (48.5万人) で割り返すと…

市川市内のひきこもり人口は推定約6,600人

※『ひきこもり』とは (定義) : 「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」 (厚生労働省)

ここに来るとどういふ変化が得られるか？

取り組みの全体像

具体的な内容
